

POCUS の普及と教育：学会・研究会の取り組み

谷口 信行

抄 録

Point-of-Care 超音波は、従来日本超音波医学会であまり使用されなかった用語であるが、最近他の学会、研究会で注目を浴びている。特に、超音波検査の必要性が高い救急領域では、患者評価法として日常的に行われつつある。ここ数年の間に、POC 超音波研究会、救急医学関連、集中治療学関連、内科学関連など複数の学会・研究会で多数の講習会とハンズオンが企画され、多くの参加者でにぎわっている。現在、その企画・プログラムはアメリカで行われている手法に準じたものやそれぞれの学会、研究会独自の手順・方法で行われているが、対象・目的が同じ場合は統一したプログラムで行われることが好ましく、その作成において本会の関与が望まれる。また、講習会で技能を取得した者には一定のお墨付きがあれば、意欲向上に役立つと思われる。

Point-of-care ultrasound dissemination and training: efforts by ultrasound societies in Japan

Nobuyuki TANIGUCHI

Abstract

The term point-of-care ultrasound (POCUS) has attracted attention recently in other clinical societies, especially in critical care medicine, because of its usefulness, but not so in the Japan Society of Ultrasonics in Medicine (JSUM). With an increase in the need for POCUS, we are seeing more and more training and hands-on sessions being hosted by the Society of Point-of-Care Ultrasound, emergency medicine-related societies, intensive care unit-related societies, internal medicine-related societies, and so on. These programs vary from society to society, which is not ideal. JSUM can contribute to establishing a standard program. And having some kind of certification may help to increase the motivation of participants.

Keywords

point-of-care ultrasound, emergency medicine, focused assessment with sonography in trauma, education

1. はじめに

日本超音波医学会では、これまで医学会として研究・診療活動に重点が置かれてきた。これは、医学会としては一般的な活動方針であり、研究を通じての社会貢献、分野の発展が望ましいものと思われる。その一方で、本会の教育分野への力の入れ方は、十分といえなかったと思われ、いろいろな意見があるかもしれないが、今後本会活動でも教育により力を入れる必要があると考えている。具体的には、超音波検査の臨床への一層の普及、学生・研修者への教育活動、教育の質を保つためのプログラム作成など、今後取り組まねばならない事項が山積している。

なお、本会の教育への取り組みが遅れてきたこと

によるかもしれないが、超音波検査が日常診療に有効と考えている他学会、研究会等による独自の超音波検査の普及活動、講習会による知識・技能育成の動きが盛んになっている。

本稿では、研修医・一般医にとって有用な超音波検査の中で、臨床の場面と関連の深い Point-of-Care 超音波 (POCUS) の教育について述べる。

2. これまでの POCUS への取り組み

研修医の教育を考えるうえで POCUS の概念は重要である。これはこれまで本会ではあまりとり上げられてこなかったものであるが、今後の超音波検査の普及を考えるうえでのキーワードと思われる。検査医学では、診療で惹起した問題解決のためにその